

学校番号

T0206

## 令和2年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史A	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	新版世界史A 新訂版（実教出版）						
副教材等							

## 1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

日々世界は大きく変化しています。あなたが生きている「今」を理解するためには、歴史を知ることが不可欠でしょう。世界史を学習することで、普段日本人があまり意識しない「世界の常識」を知ることができます。

まずは、今あなたが抱えている疑問の答えを探ることから世界史の学習を始めてみましょう。

## 2 学習の到達目標

- ・世界史の学習を通じて国際情勢の背景を理解する。
- ・歴史的思考力を培い、国際社会で活躍する者としての素養を身につける。

## 3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 資料活用の技能	d. 知識・理解
観点の趣旨	近現代史に関する関心と課題意識をもち、国際社会に生きる者として、国際理解を進める態度をもつ。	世界史の学習において文化の多様性やその国の特質を多面的に理解し、公正に判断し、その歴史的過程を適切に表現している。	近現代史の歴史に関する諸資料を収集し、正確な情報を選択して、図表等にまとめる力をもっている。	近現代史に関する基本的な知識を、地理的条件や世界と日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・ワークシート</li> <li>・授業態度</li> <li>・出席状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・ワークシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・ワークシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

## 4 学習の活動

学期	内容	単元 (題材)	学習内容	主な評価の 観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
前期	歴史の概観	・文明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文明のはじまり</li> <li>・ユーラシア諸文明の特質</li> <li>・ユーラシアの交流</li> </ul>	○	○	○	○	<p>a:ユーラシアに形成された諸文明の特質について、関心を深め、意欲的に追求しようとしている。</p> <p>b: ユーラシアの諸文明と交流の特質を見出し、地域相互間の文化変容を見出し、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>c:必要な諸資料を収集し、情報の取捨選択をして、図表にまとめる。</p> <p>d: ユーラシアの諸文明と交流の特質について理解し、その知識を身につけている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア地域の繁栄と日本</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西アジア</li> <li>・南アジア</li> <li>・明、清帝国</li> </ul>	○	○	○	○	<p>a:アジア諸地域の繁栄の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に学習しようとしている。</p> <p>b:アジア諸地域の繁栄を日本と関連付けて、多面的に考え、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>c:その国のその時代の文字史料、絵画、写真などの資料から有用な情報を読み取り、図表にまとめたりしている。</p> <p>d: アジア諸地域の繁栄の歴史的事象を日本と関連付けて、理解し、知識を身につけている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・ワークシート</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパの拡大と大西洋世界</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルネサンス</li> <li>・宗教改革</li> <li>・主権国家の誕生</li> </ul>	○	○	○	○	<p>a:ヨーロッパ地域の繁栄の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に学習しようとしている。</p> <p>b:ヨーロッパ地域の特質と繁栄を、多面的に考え、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>c:その国のその時代の文字史料、絵画、写真などの資料から有用な情報を読み取り、図表にまとめたりしている。</p> <p>d:ヨーロッパ地域の繁栄の歴史的事象を日本と関連付けて、理解し、知識を身につけている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
後期	国民国家と世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業社会と国民国家の形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業革命</li> <li>・フランス革命</li> <li>・アメリカ諸国の独立</li> </ul>	○	○	○	○	<p>a:産業社会と国民国家の形成の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に学習しようとしている。</p> <p>b:産業社会と国民国家の形成を多面的に考え、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>c:その国のその時代の文字史料、絵画、写真などの資料から有用な情報を読み取り、図表にまとめたりしている。</p> <p>d:産業社会と国民国家の形成を理解し、知識を身につけている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・ワークシート</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界市場の形成と日本</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市場の形成</li> <li>・ヨーロッパ諸国のアジア進出</li> <li>・20世紀のアジアの動揺</li> </ul>	○	○	○	○	○	<p>a: 世界市場の形成とアジアの動揺の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に学習しようとしている。</p> <p>b: 世界市場の形成とアジアの動揺を多面的に考え、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>c: 世界市場の形成とアジアの動揺について、その時代の文字史料、絵画、写真などの資料から有用な情報を読み取り、図表にまとめたりしている。</p> <p>d: 世界市場の形成を理解し、20世紀のアジアの動揺の知識を身につけている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
--	--	---	--	---	---	---	---	---	--	--

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現 c:資料活用の技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

## 令和2年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史A（通信）	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	新版世界史A 新訂版（実教出版）						
副教材等							

## 1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

激動する現在の世界の中で、国際社会を理解するには世界史を学習することが必要です。特に、世界史の中で日本の歴史を考えることは大変重要なことです。21世紀の国際社会で我々はどうのように考えるべきかを学んでください。まず、世界の大きな枠組みを理解し、世界の地理や歴史を学んでください。世界の文化の多様性を知り、歴史を知り、国際社会で主体的に行動する自分の姿を想像しながら、学習を進めてください。

そして、その国は地図のどこに位置するのか？現在は何という国になっているのか？を知ると学習が早く進みます。人物名を覚えるだけでなく、その人物が歴史の中で果たした役割を知ることが必要です。また、戦争や革命が起こった理由は何かを知ることが大切です。

## 2 学習の到達目標

- ・世界の歴史の枠組みを知り、地理的条件や世界と日本の歴史と関連付けながら理解し、文化の多様性と複合性を考えることができる。
- ・歴史的思考力を育て、国際社会で活躍する者としての自覚を養う。

## 3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 資料活用の技能	d. 知識・理解
観点の趣旨	近現代史の歴史に関する関心と課題意識をもち、国際社会に生きる者として、国際理解を進める態度をもつ。	世界の歴史から課題を見つけ出し、文化の多様性やその国の特質を多面的に理解し、公正に判断し、その歴史的過程を適切に表現している。	近現代史の歴史に関する諸資料を収集し、有用で公正で、正確な情報を選択し、図表等にまとめる力をもっている。	近現代史の歴史に関する基本的な知識を、地理的条件や世界と日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。
評価方法	定期考査 課題レポート 授業態度 出席状況	定期考査 課題レポート	定期考査 課題レポート	定期考査 課題レポート
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

## 4 学習の活動

学期	内容	単元 (題材)	学習内容	主な評価の 観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
前期	主権国家の誕生	・アジア地域の繁栄と日本	・西アジア ・南アジア、 ・明、清帝国	○ ○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	a:アジア諸地域の繁栄の歴史的 事象に対する関心を高め、意欲 的に学習しようとしている。 b:アジア諸地域の繁栄を日本と 関連付けて、多面的に考え、そ の過程や結果を適切に表現して いる。 c:その国のその時代の文字史料、 絵画、写真などの資料から有用 な情報を読み取り、図表にまと めたりしている。 d: アジア諸地域の繁栄の歴史的 事象を日本と関連付けて、理解 し、知識を身につけている。	・定期考査 ・課題レポ ート ・授業態度 ・出席状況
		・ヨーロッパの拡大と大西洋世界	・ルネサンス ・宗教改革 ・主権国家の誕生	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	a:ヨーロッパ地域の繁栄の歴史 的事象に対する関心を高め、意 欲的に学習しようとしている。 b: ヨーロッパ地域の特質と繁栄 を、多面的に考え、その過程や 結果を適切に表現している。 c:その国のその時代の文字史料、 絵画、写真などの資料から有用 な情報を読み取り、図表にまと めたりしている。 d: ヨーロッパ地域の繁栄の歴史 的事象を日本と関連付けて、理 解し、知識を身につけている。	・定期考査 ・課題レポ ート ・授業態度 ・出席状況

後期	国民国家と世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業社会と国民国家の形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業革命</li> <li>フランス革命</li> <li>アメリカ諸国の独立</li> </ul>	○	○		○	<p>a: 産業社会と国民国家の形成の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に学習しようとしている。</p> <p>b: 産業社会と国民国家の形成を多面的に考え、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>c: その国のその時代の文字史料、絵画、写真などの資料から有用な情報を読み取り、図表にまとめたりしている。</p> <p>d: 産業社会と国民国家の形成を理解し、知識を身につけている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査</li> <li>課題レポート</li> <li>授業態度</li> <li>出席状況</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>世界市場の形成と日本</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場の形成</li> <li>ヨーロッパ諸国のアジア進出</li> <li>20世紀のアジアの動揺</li> </ul>	○	○	○	○	<p>a: 世界市場の形成とアジアの動揺の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に学習しようとしている。</p> <p>b: 世界市場の形成とアジアの動揺を多面的に考え、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>c: 世界市場の形成とアジアの動揺について、その時代の文字史料、絵画、写真などの資料から有用な情報を読み取り、図表にまとめたりしている。</p> <p>d: 世界市場の形成を理解し、20世紀のアジアの動揺の知識を身につけている。最新の国際状況にも関心をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査</li> <li>課題レポート</li> <li>授業態度</li> <li>出席状況</li> </ul>

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現 c:資料活用の技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

学校番号

T0206

## 令和2年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史A	単位数	2単位	年次	4年次
使用教科書	高等学校 日本史A 新訂版（清水書院）						
副教材等							

## 1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ・歴史的事象を時代や年代ごとにとらえられるようにしよう。
- ・世界の中の日本という視点で国際的な背景を踏まえ、近現代の日本の在り方を考えよう。
- ・近現代の日本の社会や国民の生活・文化に関心を持つようにしよう。

## 2 学習の到達目標

- ・諸資料の読解を通じて、歴史的思考力を培う。
- ・国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養う。

## 3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 資料活用の技能	d. 知識・理解
観点の趣旨	我が国の近現代の歴史の展開に対する関心を高め、意欲的に追究し、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	我が国の近現代の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて判断し、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の近現代史の展開に関する諸資料を収集し、情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	我が国の近現代の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	定期考査 ワークシート 授業態度 出席状況	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

## 4 学習の活動

学期	内容	単元 (題材)	学習内容	主な評価の 観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
前期	近代の日本と世界	時期区分の方法と種類	<ul style="list-style-type: none"> <li>西暦と世紀の数え方</li> <li>日本の各時代と特色</li> </ul>			○	○	a:近代国家の形成と社会や文化の特色に対する関心と課題意識を高めている。 b:近代国家の形成と社会や文化の特色から課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 c:近代国家の形成と社会や文化の特色に関する諸資料を収集している。 d:時代区分の方法、幕末の政治・国際情勢、新政府の成立と近代化などについての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解している。	定期考査 ワークシート 授業態度 出席状況
		明治維新と近代国家の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際情勢の変化とペリーの来航</li> <li>開国と国内秩序の混乱</li> <li>幕末の政治情勢</li> <li>明治政府の成立</li> <li>近代化政策の展開</li> <li>文明開化と民衆</li> <li>新政府の国際承認</li> </ul>	○		○	○		
		立憲政体の成立と国際的地位の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由民権運動と政党の結成</li> <li>松方財政と民権運動の激化</li> <li>立憲体制の確立</li> <li>初期議会と条約改正</li> <li>日清戦争と日露戦争</li> <li>植民地経営と近代産業の発展</li> </ul>		○	○	○	a:立憲政体の成立と社会や文化の特色に対する関心と課題意識を高めている。 b:立憲政体の成立と社会や文化の特色から課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 c:立憲政体の成立と社会や文化の特色に関する諸資料を収集している。 d:自由民権運動の展開と松方財政、立憲政体の確立と条約改正、日清戦争と日露戦争などについての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解している。	定期考査 ワークシート 授業態度 出席状況
				○		○	○		

大阪府立寝屋川高等学校（定時制の課程） 指導と評価の年間計画（シラバス）

後 期	大 戦 期 の 世 界 と 日 本	第一次世界 大戦と日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・護憲運動と大正デモクラシー</li> <li>・第一次世界大戦への参戦と国際関係の変化</li> <li>・ヴェルサイユ講和とワシントン体制</li> <li>・政党政治の展開と社会運動の高まり</li> </ul>	○	○	○	○	<p>a:第一次世界大戦前後における近代国家の展開と社会や文化の特色に対する関心と課題意識を高めている。</p> <p>b:第一次世界大戦前後における近代国家の展開と社会や文化の特色から課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>c:第一次世界大戦前後における近代国家の展開と社会や文化の特色に関する諸資料を収集している。</p> <p>d:大正デモクラシーと政党政治、第一次世界大戦への参戦とワシントン体制などについての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解している。</p>	定期考査 ワークシート 授業態度 出席状況
		第二次世界 大戦と日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協調外交と金融恐慌</li> <li>・世界恐慌と昭和恐慌</li> <li>・満州事変と国連脱退</li> <li>・二・二六事件と日中戦争</li> <li>・第二次世界大戦の勃発と日本</li> <li>・アジア太平洋戦争の勃発と日本の敗戦</li> </ul>	○	○	○	○	<p>a:第二次世界大戦前後における近代国家の展開と社会や文化の特色に対する関心と課題意識を高めている。</p> <p>b:第二次世界大戦前後における近代国家の展開と社会や文化の特色から課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>c:第二次世界大戦前後における近代国家の展開と社会や文化の特色に関する諸資料を収集している。</p> <p>d:昭和期の恐慌と協調外交の破綻、15年戦争と日本の国際的孤立などについての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解している。</p>	定期考査 ワークシート 授業態度 出席状況

大阪府立寝屋川高等学校（定時制の課程） 指導と評価の年間計画（シラバス）

	現代の世界と日本	戦後政治の 動向と国際 社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1950 年までの 日本と世界</li> <li>・ 1950 年代～ 1980 年代の日本 と世界</li> <li>・ 1990 年代以降 の日本と世界</li> </ul>	○ ○	○ ○	<p>a:現代の社会や国民生活の特色に対する 関心と課題意識を高め、意欲的に追究 している。</p> <p>b:現代の社会や国民生活の特色から課題 を見だし、国際環境と関連付けて多 面的・多角的に考察するとともに、国 際社会の変化を踏まえ公正に判断し て、その過程や結果を適切に表現して いる。</p> <p>c:現代の社会や国民生活の特色に関する 諸資料を収集し、情報を適切に選択し て読み取ったり図表などにまとめたり している。</p> <p>d:現代の社会や国民生活の特色につい ての基本的な事柄を、国際環境と関連付 けて総合的に理解し、その知識を身に 付けている。</p>	定期考査 ワークシート 授業態度 出席状況
--	----------	----------------------	--	-----	-----	--	--------------------------------

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現 c:資料活用の技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

## 令和2年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史A（通信）	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	高等学校 日本史A 新訂版（清水書院）						
副教材等							

## 1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ・世界の中の日本という視点で国際関係を理解しながら、近現代の日本の在り方を考える。
- ・歴史的事象を総合的に理解するために、その時代背景を踏まえ年代ごとに総合的にとらえる。
- ・近現代の日本の社会や国民の生活・文化に関心を持ち、あるべき姿を考える。

## 2 学習の到達目標

- ・統計や諸資料に親しみ、歴史的思考力を培う。
- ・我が国の近現代の歴史を国際環境と関連付けながら理解し、国際社会で主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養い、国際的な考えを身につける。

## 3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 資料活用の技能	d. 知識・理解
観点の趣旨	我が国の近現代の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	我が国の近現代の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の近現代の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり統計や図表、地図などにまとめたりしている。	我が国の近現代の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	課題レポート 授業態度 出席状況	定期考査 課題レポート	定期考査 課題レポート	定期考査 課題レポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

## 4 学習の活動

学期	内容	単元 (題材)	学習内容	主な評価の 観点				単元（題材）の評価規準	評価方法	
				a	b	c	d			
前期	近代の日本と世界	明治維新と近代国家の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際情勢の変化とペリーの来航</li> <li>・開国と国内秩序の混乱</li> <li>・幕末の政治情勢</li> <li>・明治政府の成立</li> <li>・近代化政策の展開</li> <li>・文明開化と民衆</li> <li>・新政府の国際承認</li> </ul>	○				○	<p>a:近代国家の形成と社会や文化の特色に対する関心と課題意識を高めている。</p> <p>b:近代国家の形成と社会や文化の特色から課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>c:近代国家の形成と社会や文化の特色に関する諸資料を収集している。</p> <p>d:幕末の政治・国際情勢、新政府の成立と近代化などについての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解している。</p>	定期考査 課題レポート 授業態度 出席状況
		立憲政体の成立と国際的地位の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由民権運動と政党の結成</li> <li>・松方財政と民権運動の激化</li> <li>・立憲体制の確立</li> <li>・初期議会と条約改正</li> <li>・日清戦争と日露戦争</li> <li>・植民地経営と近代産業の発展</li> </ul>		○	○	○	○	○	<p>a:立憲政体の成立と社会や文化の特色に対する関心と課題意識を高めている。</p> <p>b:立憲政体の成立と社会や文化の特色から課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>c:立憲政体の成立と社会や文化の特色に関する諸資料を収集している。</p> <p>d:自由民権運動の展開と松方財政、立憲政体の確立と条約改正、日清戦争と日露戦争などについての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解している。</p>

大阪府立寝屋川高等学校（定時制の課程） 指導と評価の年間計画（シラバス）

後 期	大 戦 期 の 世 界 と 日 本	第一次世界 大戦と日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・護憲運動と大正デモクラシー</li> <li>・第一次世界大戦への参戦と国際関係の変化</li> <li>・ヴェルサイユ講和とワシントン体制</li> <li>・政党政治の展開と社会運動の高まり</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>a:第一次世界大戦前後における近代国家の展開と社会や文化の特色に対する関心と課題意識を高めている。</li> <li>b:第一次世界大戦前後における近代国家の展開と社会や文化の特色から課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。</li> <li>c:第一次世界大戦前後における近代国家の展開と社会や文化の特色に関する諸資料を収集している。</li> <li>d:大正デモクラシーと政党政治、第一次世界大戦への参戦とワシントン体制などについての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解している。</li> </ul>	定期考査 課題レポート 授業態度 出席状況
		第二次世界 大戦と日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協調外交と金融恐慌</li> <li>・世界恐慌と昭和恐慌</li> <li>・満州事変と国連脱退</li> <li>・二・二六事件と日中戦争</li> <li>・第二次世界大戦の勃発と日本</li> <li>・アジア太平洋戦争の勃発と日本の敗戦</li> </ul>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>a:第二次世界大戦前後における近代国家の展開と社会や文化の特色に対する関心と課題意識を高めている。</li> <li>b:第二次世界大戦前後における近代国家の展開と社会や文化の特色から課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。</li> <li>c:第二次世界大戦前後における近代国家の展開と社会や文化の特色に関する諸資料を収集している。</li> <li>d:昭和期の恐慌と協調外交の破綻、15年戦争と日本の国際的孤立などについての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解している。</li> </ul>

大阪府立寝屋川高等学校（定時制の課程） 指導と評価の年間計画（シラバス）

	現代の世界と日本	戦後政治の 動向と国際 社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1950 年までの 日本と世界</li> <li>・ 1950 年代～ 1980 年代の日本 と世界</li> <li>・ 1990 年代以降 の日本と世界</li> </ul>	○ ○	○ ○	<p>a:現代の社会や国民生活の特色に対する 関心と課題意識を高め、意欲的に追究 している。</p> <p>b:現代の社会や国民生活の特色から課題 を見だし、国際環境と関連付けて多 面的・多角的に考察するとともに、国 際社会の変化を踏まえ公正に判断し て、その過程や結果を適切に表現して いる。</p> <p>c:現代の社会や国民生活の特色に関する 諸資料を収集し、情報を適切に選択し て読み取ったり図表などにまとめたり している。</p> <p>d:現代の社会や国民生活の特色につい ての基本的な事柄を、国際環境と関連付 けて総合的に理解し、その知識を身に 付けている。</p>	定期考査 課題レポート 授業態度 出席状況
--	----------	----------------------	--	-----	-----	--	--------------------------------

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現 c:資料活用の技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

学校番号

T O 2 0 6

## 令和2年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	地理A	単位数	2単位	年次	4年次
使用教科書	基本地理A（二宮書店）						
副教材等	標準高等地図—地図でよむ現代社会—（帝国書院）						

## 1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ・現代の世界は、国境を越えて人々の交流が活発化している。交流を深化、発展させるには、異なる地域で生きる人々の生活・文化に対して、考察を深めることが大切である。
- ・地理的事象の考察に当たっては地図が最重要であるため、地図を読めるようにする。
- ・現在の世界で起こっているさまざまな問題（地震・河川氾濫などの自然災害、民族紛争、エネルギー問題など）を生徒自身の問題として考えられるよう新聞記事などをつかう。

## 2 学習の到達目標

- ・地図や統計、画像など地域に関する諸資料を通して、現代世界の地理的な諸課題についての関心と課題意識を高め、基本的な事柄や追求の方法を理解する。
- ・地理的事象と地域性や歴史的背景、日常生活との関連に対する考察を深める。

## 3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 資料活用 of 技能	d. 知識・理解
観点の趣旨	現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・授業態度</li> <li>・出席状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> </ul>
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

## 4 学習の活動

学期	内容	単元 (題材)	学習内容	主な評価の 観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
前期	地図を通して考察する現代社会の特色	1、地図	1、地域間の結びつき	○		○	○	a,地図・地域間の結びつき等について関心を高め、意欲的に追求しようとしている。 b, 世界各地の生活・文化について、自然や文化・社会の多様性を公正に判断し、多面的・多角的に考察し、適切な方法で表現している。 c,地理に関連する事象について広く新聞記事等から様々な資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、効果的に活用している。 d, 地理に関連する基本的事項や問題点を知り、多様な文化の理解を深め、その知識を身に付けている。	・定期考査 ・授業態度 ・出席状況
		2、生活・文化の多様性	2、地形・気候・経済と文化 3、世界各地の生活・文化	○	○	○	○		
後期	地球的規模の課題と生活圏の課題	3、地球的課題の地理的考察	4、環境問題 5、資源問題 6、人口・食糧問題 7、移住・都市問題	○	○		○	a,地球的規模の課題について関心を高め、意欲的に追求しようとしている。 b, 生活圏の課題について、自然や文化・社会の多様性を公正に判断し、多面的・多角的に考察し、適切な方法で表現している。 c,地理に関連する事象について、広く新聞記事等から様々な資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、効果的に活用している。 d, 地理に関連する基本的事項や問題点を知り、多様な文化の理解を深め、自己の人間観・社会観に関わる知識を身に付けている。	・定期考査 ・授業態度 ・出席状況
		4、地図は生活必需品	8、地形図の読み方 9、自然環境と防災 10、生活圏の諸課題	○	○	○	○		

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現 c:資料活用の技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

## 令和2年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	地理B（通信）	単位数	3単位	年次	2年次
使用教科書	新編 詳解地理B改訂版（二宮書店）						
副教材等	標準高等地図—地図でよむ現代社会—（帝国書院）						

## 1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ・地理的事象の考察に当たっては地図が最重要であるため、地図を読めるようにする。
- ・現在の世界で起こっているさまざまな問題（地震・河川氾濫などの自然災害、民族紛争、エネルギー問題など）を生徒自身の問題として考えられるよう新聞記事などをつかう。
- ・系統地理のデーター処理として重要な統計やグラフを読み解けるようにする。

## 2 学習の到達目標

- ・地図や統計、画像など地域に関する諸資料を通して、現代世界の地理的な諸課題についての関心と課題意識を高め、地理的事象についての基本的な事柄や追求の方法を理解する。
- ・地理的事象系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚を深める。

## 3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 資料活用の技能	d. 知識・理解
観点の趣旨	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像など地域に関する様々な資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート</li> <li>・課題レポート</li> <li>・授業態度</li> <li>・出席状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題レポート</li> <li>・定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題レポート</li> <li>・定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題レポート</li> <li>・定期考査</li> </ul>
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

## 4 学習の活動

学期	内容	単元 (題材)	学習内容	主な評価の 観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
前期	自然環境	・地図と物理的技術  ・自然環境	1、地図を読む、地球儀と世界地図、日本の領域、地図の活用	○		○	○	a,地図に関連する事項について関心を高め、意欲的に追求しようとしている。 b, 自然環境について、自然の多様性を知ることで多面的・多角的に考察している。 c,自然環境や生活に関連する事象を、広く新聞記事等から様々な資料を収集し、効果的に活用している。 d, 自然環境に関連する基本的事項や問題点を知り、多様な自然や文化などの理解を深め、その知識を身に付けている。	・課題レポート ・定期考査 ・授業態度 ・出席状況 ・アンケート
			2、地形	○		○	○		
			3、気候		○	○			
			4、自然と生活	○	○	○			
			5、環境問題	○	○		○		
後期	世界の生活と文化	・資源と産業  ・人口・居住・生活文化・民族・宗教	6、資源・エネルギー	○		○	○	a,資源問題から生産・流通・消費について関心を高め、意欲的に追求しようとしている。 b, 居住・生活文化・宗教について、文化、社会の多様性を公正に判断し、多面的・多角的に考察している。 c,世界の生活・文化についての事象を新聞記事等から様々な資料を収集し、効果的に活用している。 d, 地理に関連する基本的事項や問題点を知り、多様な文化などの理解を深め、その知識を身に付けている。	・課題レポート ・定期考査 ・授業態度 ・出席状況 ・アンケート
			7、工業・流通・消費	○			○		
			8、人口と都市・村落		○	○			
			9、衣食住		○	○	○		
			10、言語・宗教・民族・国家		○				

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現 c:資料活用の技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。